

科目名 Subject Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
英米文学作品研究 The Study of English Literature		2年	前期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態		授業の性格	
2単位	講義		選択 (教職課程必修 (中学校教諭二種英語))	
当該科目の理解を促すために受講することが望まれる科目				
特になし				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
異文化間コミュニケーション				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
佐藤 秀一	本館2F	火曜・水曜の11時から16時 (授業時間を除く)		授業中に指示します
授業の概要				
英米文学の近代以降の動向を時空を超越して、本質的に人間素材とその営みに有機的に拘り合う観点として、主だった作家、作品を通して考える。また、その際、基本的な文学知識や作品の背景となるべく歴史的、社会的、文化的状況を併せて観て行く。英米文学世界の芸術性を考察し、文学の面白さ、素晴らしさを感知できればと思う。				
授業の到達目標				
①作品を貫通するイマジネーションを考察し、自己の人生を豊かなものにすることができるようにする。 ②「生きる」ということについて真摯に向き合い考えることができるようにする。 ③作品の描写、思想、人間の「状況」について考察することができるようにする。 ④社会のあるべき姿、人間の在り様について考えることができるようにする。				
授業の方法				
授業の進め方は、講義と演習の形式を併用して行う。毎回の授業はテキストを中心に進めていくが、時には、プリントを配布し、講義を行う。各自一人ひとり各パラグラフごとに読み、鑑賞したことをクラス全体の前で発表し、その内容日についてディスカッションをする。そのことにより作品をより深く読み、より深く味わうことができるからだ。				
学習の成果				
この授業を履修すると、あなたは ①文学世界に触れることにより、感動する心が生まれ人生を豊かにすることができる。 ②「生きる」あるいは「生」と「死」と真摯に向き合うことができる。 ③さまざまな知識が身につく教養が深く身に付けることができる。 ④大切な人を思いやるやさしさを養うことができる。 ⑤人生における判断力を養うことができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス・概要説明			
第2回目	Chapter 1 Kellynch p.7 Sir Walter Elliot ～ p.8 Her new home			
第3回目	p.9 One day soon after this, ～ p.10 to Sir Walter one day			
第4回目	p.12 Your daughter, Anne, ～ with his sister, Mrs Croft!			
第5回目	Chapter 2 Uppercross Sir Walter and Elizabeth ～ p.17 to forget my love for him			
第6回目	p.17 Three or four days after this, ～ p.20 think about it			

第7回目	p.20 It was autumn. ～ p.24 to say which he likes most,' answered his wife.		
第8回目	Chapter 3 Lyme For two or three days ～ p.26 for a walk in Lyme		
第9回目	p.26 They walked first ～ p.29 Anne did not say a word.		
第10回目	Chapter 4 Bath Sir Walter's house ～ p.32 the time went very quickly!		
第11回目	p.32 The Winter weeks went by, ～ p.34 but we were wrong,' Mary wrote.		
第12回目	p.34 Anne was very happy ～ p.36 When they went into the theatre,		
第13回目	p.38 'Why are you happy about it?' ～ p.40 Mr Elliot was a very bad man.		
第14回目	p.40 She went home .～ p.45 to be the wife of this handsome young officer.		
第15回目	Comprehensive FINAL EXAM (解答と解説)		
成績評価の方法と基準			
	評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度		30%	ディスカッションの場面で自分の考えを進んで述べる。理解できない点があれば積極的に質問する。
レポート			
調査報告書			
小テスト			
中間・学期末試験		50%	テーマをたて、それについてクリエイティブな独自の考えを証明しながら論理的に述べる。
発表内容 (態度含む)		20%	思考・探求力が深く、誰もが納得できる内容で明白に述べている。
その他			
教科書と参考図書			
Persuasion 「説得」 by Jane Austen (SIMPLY名作シリーズ) 佐藤秀一注釈 南雲堂			
履修上の心得・ルール			
常に作品の素晴らしさを考え、感動し、持続して読んで行く姿勢で臨んで欲しい。食べ物飲み物の持込、携帯電話の使用禁止。			